

## 令和5年度第2回高知県産業振興計画フォローアップ委員会観光部会 議事概要

日時：令和6年1月22日（月） 14:00～16:00

場所：高知城ホール 4F「多目的ホール」

出席：委員10名中、9名が出席

議事：（1）第5期産業振興計画＜観光分野＞の全体像（案）について  
（2）第5期産業振興計画＜観光分野＞の重点施策（案）について

### 【意見交換概要】

#### （三井部会員）

- ・私からは、主にインバウンド関係のお話をさせていただく。
- ・昨年3月から、クルーズ船が寄港するようになり、多くの外国人観光客が高知を訪れている。
- ・高知を訪れている外国人の方の多くは、高知について、良い印象を持っていただいているようだ。
- ・理由は、「金沢などの他県は、オーバーツーリズムで多くの外国人観光客が訪れているが、高知県は、外国人観光客が少なくゆっくりできる。」との意見が多くあった。このような視点から高知の魅力を再発見することができた。
- ・クルーズ船で来られた観光客には、数人単位のグループでガイドを頼む個人旅行が人気であるが、ローカルガイドが不足しており、ガイド不足が課題となっている。
- ・台湾のチャーター便が、週二回高知に来ており、我々も水曜日3名、土曜日5名体制で手伝いに行っているが、ボランティアで行っているため、かなり疲弊しており限界にきている。新年度からは、高知県の地域通訳案内士などをもっと有効活用していただきたい。
- ・私は、百貨店の高知大丸でもお手伝いをしているが、大丸の一括免税カウンターの利用者は、特定のお店で買い物した方に偏っている。どのようなお店で買っているかという「タックスフリーショップ」のシールを貼ってあるお店ばかりである。
- ・帯屋町の商店街では、このタックスフリーショップを表示していないお店が多いので、商店街として前向きに取り組んではどうかと考えている。

#### (山本国際観光課長)

- ・クルーズ船の寄港については、ガイドの数を増やす必要があると考えている。そのため、ガイドの育成に力を入れており、特にガイドの登録のみをして活動していないガイドの方もいるので、そのような方たちにご協力いただけるように促していければと考えている。
- ・チャーター便の通訳については、高知 SGG 善意通訳クラブ以外の方にも活動していただくように連携して進めて行く。
- ・高知大丸の免税店については、県としても消費額の拡大に向け、商店街や地域の皆様に、どのように取り組めば消費拡大につながるかなどを、ご説明する際に、しっかりシールを貼っていただく旨の話を、セミナーや商店街での会合等を通して進めて行く。

#### (山脇観光振興部長)

- ・先ほどお話にあった、免税シールの貼付については、チャンスロスをしている部分がある。それは、クレジットカードの使用についても同じ事が言える。そのため、クルーズ船の受入れの会合で改めて、県の方から話をさせてもらう。

#### (樋口部会員)

- ・高知龍馬空港の新ターミナルビル整備について、資料にはハード面の整備が記載されているが、民間事業者の様々な業務に関わる人材確保などのソフト面での支援も必要であると考えます。
- ・そのため、新ターミナルビル整備については、ハード面だけでなく、受入体制などのソフト面についても記載をお願いしたい。

#### (山脇観光振興部長)

- ・高知龍馬空港は、国内線だけの空港であるため外国からの直行便を受け入れる機能自体が現状はない。
- ・そのため、新ターミナルビルの整備には、台湾のチャーター便のように、国際線のニーズがあることが大切で、それらをつなげていくことで、空港の国際化を図っていく。
- ・CIQ やグランドハンドリング、ガイド等のソフト面が、厳しいことは理解している。
- ・大きな役割分担として、観光は搭乗率を確保しながら「高知イン、アウト」を止めないように全力で進める。ソフト面の課題についても、ご指摘を踏まえて、中山間・交通部と共有して庁内でも議論していく。
- ・国際ターミナルの完成は、令和7年の秋くらいになるのではないかと考えている

が、それまで、何とか国際線の受入体制を整えていきたいと思っているので、各方面からのご支援をいただければと思っている。

#### (北古味部会員)

- ・スポーツとインバウンドの関係についてお話ししたい。海外のインバウンドに関するガイド育成の部分について、昨年の夏頃に高知県でソフトボールのアジア大会が春野総合運動公園で開催された際に、インド、シンガポール、香港など、アジア圏の多くの国の選手が合宿を行った。
- ・以前までは、英語を話せるガイドさんをお願いしていたが、今回は、龍馬学園の留学生に通訳だけでなく、リエゾン業務にも従事していただいた。
- ・特に、母国出身の留学生にリエゾンをさせていただくことで、母国の文化・習慣なども良く理解しているので、日本とその国との間に立ち、様々な場面に対しての応用が利くことから、非常に評価が高かったと聞いている。
- ・特に留学生の多くは日本や高知県で働きたいと言っているため、そのような人材を積極的に活用していただきたいと考えている。
- ・スポーツツーリズムの国際交流について、高知県スポーツコミッションが今年3月の中旬に台湾と連携して、台湾の高齢者を対象としたゲートボールでの交流を計画している。
- ・台湾でもお金と時間がある高齢者の多くが、健康志向であることに着目し、ゲートボール協会の方にもご協力いただいて計画している。
- ・この交流は、台湾のチャーター便を活用して実施する予定。
- ・今は、台湾から高知県へ多くの観光客に来ていただいているが、今後のステップとして、高知から台湾に行っていただくためにどこが主導していくのかが大切。
- ・また、韓国の剣道ナショナルチームが昨年12月に高知県に来ていただいたが、他のスポーツの種目等のコンテンツも活用して交流していくことが大切と考える。

#### (山脇観光振興部長)

- ・高知県に来ていただいている外国人観光客は、母国語が英語圏の方が少ない。
- ・また、ツアーなどで怪我をされた場合などの対応にはそういったリエゾン業務が必要だと考える。
- ・そのため、リスト化や登録制などの仕組みを検討しないといけないと考えている。
- ・このようなニーズがあることを、日頃から伝えることができる定期的な会合などが必要であると考えているので、そういった点を、今後検討させていただきたい。
- ・先ほど台湾との国際交流の話があったが、どこが束ねていくかと言えば、観光が束ねるべきと考えている。庁内においても他の部局とも情報共有をしながら話を

進める。

- ・また、今年、高知龍馬マラソンに台湾の方7名に参加していただいたが、台湾チャーター便が1年延長になるのであれば、高知龍馬マラソンに台湾の応募枠を設けるなど、他部局との連携した運用も考えている。

#### (谷内企画監)

- ・スポーツツーリズムは、主に3つの柱を中心に取り組んでいる。
- ・1つ目のプロスポーツの誘致では、昨秋、新たに埼玉西部ライオンズ1軍がキャンプを行うとともに、今春のキャンプでは、Jリーグが昨年の4チームから5チームに増加した。また、埼玉西部ライオンズ、韓国のプロ野球2チームに加えて、台湾のプロ1チームが練習試合で来ることになっている。
- ・2つ目のアマチュアスポーツの誘致では、市町村等と連携して取り組みを進め、今期は過去最高の実績となる見込み。
- ・3つ目は、本県の自然環境を生かしたサイクリングなどのスポーツツーリズムを推進している。
- ・インバウンド誘致では、オリンピックのレガシーを活かした交流や、来月開催の高知龍馬マラソンに台湾、香港からインフルエンサーを招聘するなどの取組を行っており、今後、強化していきたいと考えている。
- ・引き続き、スポーツコミッションや県観光コンベンション協会等と連携し誘致を行っていく。

#### (森部会員)

- ・4年前に、土佐経済同友会としてアドベンチャーツーリズムの提言を出させていただき、昨年は、高知の文化や地域振興をそのまま観光にしようといった提言を出したが、その提言を政策に盛り込んでいただき、感謝申し上げます。
- ・近年、日本でオーバーツーリズムが問題となっているため、オーバーツーリズム対策としての「守り」の取組も大切であるが、是非、誘客の観点での「攻め」もゆるめず、しっかりと実施していただきたい。
- ・つい先日、京都に行ったが、京都はオーバーツーリズムと言われているとおり、バス停には、多くの観光客が並んでいた。しかし、タクシーなどを利用して移動することができたことから、まだ、工夫する余地はあると感じた。
- ・高知県についても工夫してオーバーツーリズムを恐れず攻めていただきたい。
- ・台湾の定期便化に向けた動きについて、現状はどうなっているのか。また、経済界としてどういった後押しがあれば、定期便化につながるのかを、お伺いしたい。
- ・新ターミナルビルの整備については、台湾の定期便のみの対応を想定指定しているのか、更に先の韓国・香港なども見込んでいるのか。どこまでを見越して整備

する計画なのか教えていただきたい。

- また、国際線のみならず、国内線についても関西空港などとの直行便が必要。特に、大阪・関西万博までには、実現していただきたい。
- 沖縄、札幌と連携していくことも必要。
- 沖縄であれば、多くのプロ野球チームがキャンプをしているため、キャンプをしているチームが、沖縄で練習試合を行うといったことが可能となる。そういった点から、キャンプ等の誘致にも有利となる。
- 2次交通の充実について、路線バスやタクシー会社が新規事業として、スマートタクシーのような新しいモビリティに取り組めるようにしていただきたい。
- 特に、防災の観点からも、点と点でピンポイントにつないでいけるように、最先端の取り組みを進めていただくことで、平時は観光が利用し、緊急時は、防災優先で使用するなどの取り組みを進めていただきたい。
- 観光人材の確保・担い手不足の対応について、戦略目標にある「県内全産業平均と比較した宿泊業の所定内給与額の水準」について、宿泊業とその他の業種の賃金の差を縮めて行くとのことであるが、具体的にどのような目標なのか教えていただきたい。
- また、古民家を利用して町全体を分散型の宿泊施設とする取組について、地元のホテル運営業者などがビジネスに取り組んでいけるような支援をお願いしたい。
- 最後に、アドベンチャーツーリズムについて、高知の強みである「釣り」を全面に押し出していきたい。
- 須崎市が『釣りバカ』シティとして、釣りを全面に出しているが、須崎市だけのPRだと、なかなか、全国へ伝わらないことから、県の支援が必要であると考えられる。高知の強みの1つである「釣り」は世界に向けて発信していける素材なので、是非PRしていただきたい。

#### (山脇観光振興部長)

- 「どっぷり高知旅」の一番の肝は、「高知の価値をどうやって、誰が伝えるのか。」である。この部分をしっかりと取り組まなければ、観光客は、価値に気付かずに帰ってしまう。
- そのために、今までは、ガイドや観光施設などをお願いしていたが、これからは、県民総出で価値を伝えることができる環境を、一枚岩となつてつくるのが大切。そのような意味も込めて、「どっぷり高知旅」コンテストなどを実施していく。
- また、県のキャンペーンの主旨を県民にしっかり伝えることも大切。
- 新ターミナルビルの整備の見込みについては、個人的な見解として、台湾だけでは駄目で、少なくとも2ヶ国に対応できる必要があると考えており、キャパ的にも可能であると考えている。

- ・台湾の次の狙いは韓国を考えている。以前まで高知は、国内線のみと思われていたが、最近、国際線も対応できるとの認識から、ようやく韓国の方から声がかかるようになってきた。まずは、5往復などの短期から進めていきたいと考えている。
- ・高知龍馬空港については、今年度、海外専用の出入口をつくり、令和7年に新ターミナルビルを完成させる。
- ・関西空港との直通便は、必要だとは思っており、セールスを実施しているが、中々前に進んでいないのが現状。セールスを強化しながら継続して進めて行く。
- ・沖縄との直行便について、練習試合のニーズについては、理解しているが宮崎県との引き合いに負けている。しかし、沖縄ー高松便からバスで高知まで移動も可能であり料金も安いので、そういった面も活用してセールスをしていきたい。
- ・富裕層向けの旅行商品について、空飛ぶ車ではないが、ヘリを使った旅行商品を扱ってもらえる事業者へもセールスを実施している。
- ・廃校になったグラウンドなど、ヘリポートとして利用できる場所もあるため、旅行会社の方とも広く打合せを実施していきたい。
- ・県内の産業の給与と宿泊業の給与所得の差については、宿泊業が他の産業の給与額の平均より低いことは、データでも出ているため、その差を縮めていくための目標である。
- ・中山間地域に宿泊機能を増やそうと考えた場合に、新たな宿泊施設を誘致するのは困難である。フロントは1箇所であるが、客室は様々な場所に分散している分散型ホテルの取組を先進的に進めている地域が他県にあり、そういった町を手本に、長期滞在への受皿づくりを進める。
- ・釣りについても今後、アドバイスをいただきながら検討していく。

#### (町田部会員)

- ・食についての現状を共有させていただく。都心では、フリーのシェフが1つのサービスに5,000人以上登録している。特にコロナ禍等によりフリーにならざる得なかったシェフも多くいる。
- ・そのようなシェフに対してのサポートとして、産地の紹介や案内ツアーなどを企画しているが、非常に好評でありシェフが積極的に希望して参加している。
- ・産地の案内で大切なのは、シェフのニーズを聞きながら、それに合った産地を紹介することができる専門の知識を持ったコーディネーターを確保することである。
- ・また、産地にご迷惑がかからないような調整も必要であるため、そういった点を支援していただけると助かる。
- ・産地の案内ツアーはニーズがあり、よく案内するが、私を含めシェフについても

自動車の運転免許を所持していない方が多く、10名規模で来ていただくと、移動手段に困る。

- ・2泊3日で、産地を巡ることができ、気軽に使える足があれば、良いと考えているので、そういった点での支援があれば良いと考えている。
- ・シェフと地域をつなぐ活動は、観光に結びつく。産地に来ていただいたシェフは、必ず産地の食材を使用する。数%でもプロの料理人と地域とが繋がれば、非常に大きなPRとなる。そのためには、高知県に来てからの何かサポートがあれば良いのではないかと考えている。

#### (山脇観光振興部長)

- ・以前、県でも地産外商を掲げ、第1弾として高知の食材を全国にセールスし、第2弾で、バイヤーなどを高知県に招いて、商談会を実施した。第3弾では実際の産地に赴いて、どのような方が、どうやって作っているのかなどを見ていただいていたが、あくまでバイヤーを対象としていたことから、これをシェフにすれば、効果はあると考える。
- ・今後、担当部署とも情報を共有して、検討していく。

#### (古谷副部長)

- ・資料4の(3)長期滞在の促進にある「①宿泊施設を中心に観光事業者が連携した滞在時間延長の取組の支援」から「③長期滞在に必要な飲食提供機能の強化について」までを、少し掘り下げてご説明していただきたい。

#### (中村地域観光課長)

- ・資料(3)の①宿泊施設を中心に観光事業者が連携した滞在時間延長の取組の支援については、令和4年度から宿泊施設の魅力向上として取り組みを進めており、来年度は、宿泊施設を中心として、観光事業者と連携し、面での取り組みを実施する。
- ・例えば、宿泊施設周辺の観光地や体験の商品などを紹介したマップを作ったり、それを組み込んだ旅行商品の宿泊プランなど、面での取り組みを、アドバイザーの方にも入っていただいて支援していく。
- ・②複数の宿(一棟貸しの宿、古民家ホテルなど)を中心に地域を深く味わいながら過ごすことのできる地域づくりについては、先ほどご説明したように、愛媛県の大洲市を参考に、エリアの中に宿泊場所や食事の場所が点在する分散型ホテルの取組を進める。また、町を巡っていただくことで、その地域の良さ、特徴を理解していただけるような、計画づくりを支援する。ハード面の整備についても、国費を活用していきたいと考えている。

- ・③長期滞在に必要な飲食提供機能の強化について、②にも関係しているが、地元の方が通う美味しい料理店の料理を堪能しながら長期滞在をしていただきたいと考えているが、お店によっては土日などの休みの日に閉まっている場合もあるので、観光客の予約等がある日は、定期的に開店していただくなど、協力してもらうように取り組みを進める。

#### (鎌倉部会員)

- ・スポーツ合宿などで訪れたチームがその後成績を上げた場合に、「おめでとう」などのお祝いメッセージを送るフォローをしっかりと行ってはどうか。
- ・プロについては、引退時のフォローなども行えば、おもてなしの心に通じるので、そうした情報にもアンテナを張りながら実施してはどうか。
- ・昨年、奈良県と石川県に出張に行ったが、奈良県は東南アジア系の方が非常に多く、金沢は、欧米の方が非常に多かった。このように国によって嗜好の違いがあると感じた。
- ・金沢駅の周辺には、食事できるお店が無く、コンビニや自販機も無いなど、文化に力を入れている町である。兼六園を中心に文化施設等がまとまっており、非常に観光がしやすい町になっている。
- ・移動手段であるバスには右回りと左回りがあり、200円で周遊できるようになっている。それを見て、高知県のMY遊バスも、バス停の増設は法律の問題があつて難しいかもしれないが、乗り場をもっと増やせば利用者が増えていくのではないかと感じた。
- ・これまで磨き上げてきた素材を集大成として打ち出す事も良いが、一方で網羅的にしてしまうと逆に特徴が無くなるとの指摘もある。そのため、売りをどう際立たせていくのかが課題になるだろう。
- ・自分がバイクで旅行をする場合は、まず、場所や食べ物などによって目的地を決め、その後、インターネットで、そこに至る都道府県の観光情報を検索して立ち寄り場所を決め、詳細なルートを決定する。
- ・高知県は「こうち旅ネット」があり有名な観光地域以外の情報も掲載しているが、他所の県に旅行をする際には楽天やじゃらん等の大手のサイトで「おすすめ観光地〇〇選」などを検索する機会が多いので、そういったサイトに現在高知県のことについてどういう情報が載っているのか関心を持つことも重要。
- ・また、一定数の調査対象者を抱えていて、企業等からの依頼を受けてインターネットでアンケート調査を実施している会社があるので、そういったところを利用して、日頃多くの方は旅行先やその際のその他の観光地巡りの行先をどうやって決めているのかについて調査をしてみてもいいのではないかと。
- ・高知放送開局 70 周年・高知県立美術館開館 30 周年記念に「ジブリパークとジブ



り展」を開催しているが、高知放送が系列局も使って広くPRしてくれているため、近畿や中国地方からの来場者も多い。やはりマスメディアの広報の力は大きいと感じている。

- ・また、オープニングの際に、スタジオジブリの副社長とお話しをする機会があったが、「全国で行ったことがないのは、高知県だけ」という社員がいて、今回高知へ来るにあたってその社員からかなり羨ましがられたとおっしゃっておられた。
- ・高知県には、一度来ていただければファンになる方が多い。高知に一度も来ていただいていない方にどうやって情報を届けるかが重要。
- ・土曜日の夕方に放送している日本テレビの「満天☆青空レストラン」は、地元の食材をゲストとともに実際に収穫し、それを調理して食べる番組であるが、高知県の中山間地域などの特産品を使って、ああいうパッケージで体験プログラムの観光商品として売り出すのも1つの手ではないか。

#### (山脇観光振興部長)

- ・スポーツ合宿・キャンプの誘致について、特にプロは、必ず祝電や垂れ幕などのお祝いをしており、場合によっては、植樹なども実施した。また、小さいチームであっても好成績を上げれば、お祝いのメールなども送っていると認識している。
- ・奈良県や金沢のような町を県としても目指したいが、需要と供給のバランスがあり、観光客のニーズがあって初めて成り立つことから、まず、お客さんを多く呼ぶことに注力しながら並行して進めていく。
- ・目的旅行については、高知県が目的地となるよう地域づくりを行う。考え方としては、サステナブルツーリズムであり、一度行けば十分と行った旅行先では無く、何度も来れる旅行先を目指す。
- ・高知県に一度も行ったことがない方がいることは、逆に伸びしろがあると考えて、取り組んで行く。
- ・マスメディアを使った広報は、効果があると思う。県としても「バナナマンのせっかくグルメ」などの番組にも県から仕掛けている。モニタリングもそうである。「満天☆青空レストラン」についても素材を提供している。今後、パブリシティ方面にも力を入れて発信していく。

#### (鎌倉部会員)

- ・高知版の「満天☆青空レストラン」を企画してみてもいい。

#### (山脇観光振興部長)

- ・「どっぷり高知旅」のPR動画が必要なので、そういったところを意識して検討する。

### (赤池部会員)

- ・中山間地域を大きく全面に打ち出していくことは、観光だけでなく、地域を変えていく意気込みであると感じた。集落活動センターは県内に60数カ所あり、高知県の強みであると感じているが、集落活動センターをローカルブランドに変えていく気持ちが有るのか。
- ・集落活動センターの現実としては、地域の生活を支えるためのセンターであるが、それでも中々上手くいっていないのが現状。しかし、観光という視点で見るとは大切。
- ・行政としては、難しいであろうが、廃村ツアーというのが、インバウンドでは魅力的で人気がある。
- ・観光のニーズはあると思うので、そのような視点でもう一度、マーケティングすることが重要。
- ・集落活動センターを活動主体とした場合に、ターゲットやマーケティングなどとの接点が中々見えてこないのが現状であり、集落活動センターだけでの商品化は厳しい。物を作ることができてもそれを外に売っていく接点が無い。
- ・そのため、集落活動センターとターゲットや旅行会社などをつなぐ中間組織が必要。更にもう一つ仕組みが必要であると感じた。
- ・高知龍馬空港から台湾に行く際に、外国に行く「ワクワク感」が足りない。国内旅行と違ってドキドキ感や緊張感があると思うが、空港の中にそれが感じられない。
- ・逆もしかりで、台湾から来た方も「日本に来た。」という「ワクワク感」がないのではないか。もう少し、「ワクワク感」が感じられるような雰囲気やおもてなしがあれば良い。
- ・台湾のチャーター便について、台湾から高知に来るばかりでなく、高知から台湾に行くなどの相互交流が非常に大切。そのため、高知から台湾に行く機会をどんどん増やして欲しい。
- ・しかし、高知から台湾に行く際のチケット購入について、インターネット弱者にはハードルが高いことから、チケットの購入を支援する代理店のような機能があれば良い。特に高齢者は、行きたくてもチケットや宿泊場所を予約することができないのではないか。
- ・人材不足の対応について、短期的に見れば、外国人の労働力に頼るのも良いかもしれないが、将来の高知県の産業を支えるための担い手育成の面から長期的に見れば、県内の若者の労働力が必要である。
- ・そのためにも小学校・中学校・高校の学生のころから、もっと観光産業に関わって興味を持ってもらうための仕組みづくりが必要ではないか。
- ・特に小学校の教育の中で、高知の観光に触れることができれば良いと考える。

#### (山脇観光振興部長)

- ・高知龍馬空港の「ワクワク感」については、空港の中のあり方も含めて管理者と話をしていく。
- ・タイガーエアーは、LCCであり、チケットの購入をインターネットに絞ることで、料金を安くしている。
- ・県内の旅行会社が台湾行きの募集をした際に、入力方法の解説などをしており、そういった事をしながら、徐々に慣れていただければと考えている。
- ・教育の中で、観光産業に触れていただくことは大事な視点で、ホテルの方が出前講座してるとの話も聞いている。
- ・小学校から観光産業に触れることは大切であると考えている。
- ・60数カ所ある集落活動センターは、地域住民のサロンとしての場所や食事をする場など、あり方はそれぞれである。集落活動センターが観光の中心施設となるのは難しいと考えている。
- ・集落活動センターができるまで、様々な議論を経てきたのも事実なので、そういった点も踏まえて、可能性を感じられるきっかけになればと考える。

#### (古谷副部長)

- ・現在、コロナの影響で中断しているが、以前に伊野商業の学生3名を一週間程度受け入れたことはある。
- ・内容としては、ベットメイキングやフロント業務などを体験してもらった。
- ・コロナも落ち着いてきたので、今後、再開されると思う。他のホテルについても同様に、受け入れて高校生に教えていると聞いている。
- ・今後も機会があれば、どんどん受け入れて、観光を知ってもらえればと考えている。
- ・また、宿泊施設から、学校へ講演や出前授業なども実施していると聞いており、観光産業についてどんどん知ってもらうことが大切であると考えている。

#### (樋口部会員)

- ・中山間地域に焦点を当てて正面から取り組むという、非常に難しいところに取り組むことについて評価する。
- ・県として、今後4年間の観光振興は、中山間地域のみを対象としているのか。中山間地域以外の中心部などは、これまでの取り組みや情報発信などを経て定着していることから、県の方では中山間地域に力を入れるという理解で良いか。
- ・中山間地域とそれ以外の地域とのウェイトや中山間地域の取組の考え方を教えていただきたい。

#### (山脇観光振興部長)

- ・観光客の大半は高知市で宿泊することから、当然、高知市が観光の中心となるので、そのプロモーションも行っていく。それに加えて、中山間地域に足を延ばしていただき、長期滞在につなげることで、高知県の本当の良さや厚みを理解していただく。
- ・中山間地域の取り組みの難しさは理解しているが、中山間地域に切り込んで行かなければ、高知県の中山間対策、少子化対策などの県全体の進むべき方向に向かえないと考えており、中山間地域の観光振興にはこれまで以上に取り組んで行く。

#### (樋口部会員)

- ・キャンペーンごとに、パンフレットやリーフレットを作成していると思うが、今回「どっぷり高知旅キャンペーン」は、ターゲットを絞らないと何を売っていくかが分かりにくくなる面もある。リーフレットなどの作成イメージを教えてください。

#### (山脇観光振興部長)

- ・キャンペーン開始時のパンフレットは、今まで整備してきた観光の拠点が大きなウェイトを占めると思うが、それと並行して地域に商品を作っていくことで、徐々にその割合を変えていく。
- ・4年後の最終年度については、軸になる観光拠点は出てくるが、そこを楽しみながら、連泊して他も楽しんでいただくようなイメージを持っている。

#### (三井部会員)

- ・昨年のニューヨークタイムズで、「2024年に行くべき52ヶ所」に山口市が3番目に紹介されていた。更に、2023年には、イギリスの首都ロンドンに続く2番目に盛岡市が紹介された。
- ・このように、外国人観光客は、日本のコンパクトシティに魅力を感じており、高知にも可能性があると考えている。
- ・高知県は路面電車があるのが強みと考える。
- ・土佐和紙と路面電車を組み合わせて日本遺産に登録してはどうか。
- ・高知の路面電車は、伊野の和紙を運ぶために開通した経緯があり、土佐和紙と路面電車は、ストーリー性があることから、日本遺産に登録できると考えている。
- ・日本遺産に登録されれば、文化庁が世界に向けて発信していただけるので、非常に有効であると思う。

**(山脇観光振興部長)**

- ・高知市及びいの町へ情報を共有して道を探っていきたい。

**(天野部会長)**

- ・高知龍馬空港の国際化については、是非成功させていただきたい。
- ・高知県は、欧米の方に気に入ってもらえる「自然・食・文化」などの素材がたくさんある。
- ・欧米の方に来ていただくためには、関西空港からの直通便が必須であるため、様々な方法を模索していただき、何とかお願いしたい。
- ・台湾チャーター便を出迎える際の手作りの横断幕は、他県にない温かさがあると思う。
- ・国際空港化に向けて大切なことは、空港で長時間お待たせしないこと。特に、旅行者がどうして待たされているのか分からない時間があるといけない。その他、高知ならではのワクワク感を工夫して出していだければと思う。
- ・また、高知県はヨーロッパに響く素材もある。特にサイクルツーリズムに力を入れているが、現時点では、しまなみ海道のある瀬戸内に遅れを取っていると感じている。
- ・しかし、仁淀川などの中山間地域の素晴らしい風景があり、ロードバイクの大会を開催するには非常に良い環境であると思うので、世界のロードバイクの大会等を誘致すれば、おのずとヨーロッパなどでの高知県の知名度は上がり、観光客の増加につながるので、是非、チャレンジさせていただきたい。
- ・毎年開催している、高知城の夜間イベントについては、県民の方はイベントに慣れてしまっている傾向があるため、来場者の占める割合が、県外観光客の方が増えていると感じた。
- ・夜間イベントの開場時間が、午後6時からで最終入場が午後9時のため、丁度宿泊施設での夕食の時間と被ってしまい、来場する機会を逃してしまっている。
- ・例えば、開場の時間を午後5時30分にしたり、最終入場をもう少し遅らことができれば、県外観光客の誘客のフックになると思うので、是非検討していただきたい。

**(山脇観光振興部長)**

- ・県の西部では、ロードバイクのイベントや大会誘致などを進めてきた。また、愛媛県と連携しながらサイクルツーリズムの取り組みも進めている。
- ・サイクルコースとしては、しまなみ海道より勝っている部分もあると考えているので、粘り強く取り組みを進めていく。
- ・ナイトイベントについては、時間も含めて見直しを考えている。イベントから出

てこられて、飲食もしていただきたいと考えている。また、他県でもプロジェクトマップは多く行われているため、イベント内容も含めて見直しを考える。

(以 上)